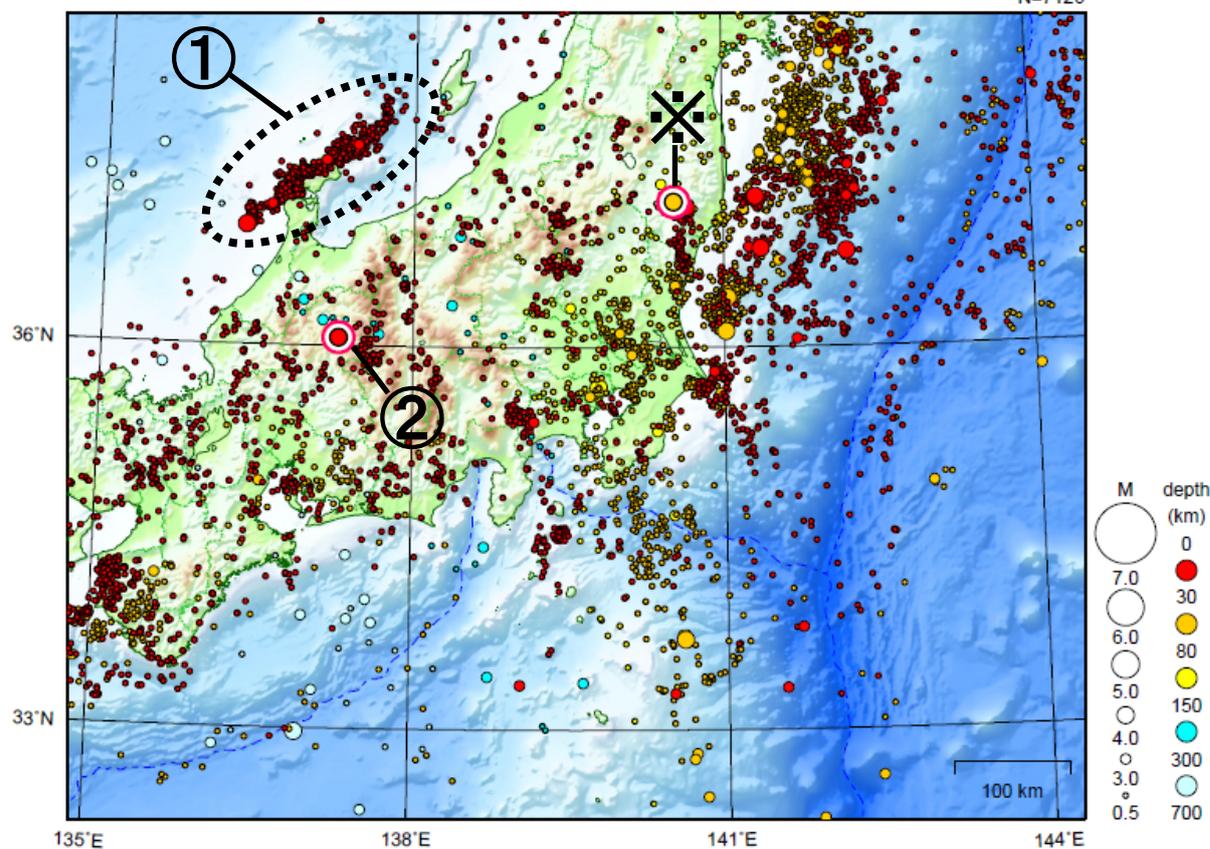


関東・中部地方

2025/05/01 00:00 ~ 2025/05/31 24:00

N=7126



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOPO30及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 「令和6年能登半島地震」の地震活動域では、5月中に震度1以上を観測した地震が8回（震度3：1回、震度2：1回、震度1：6回）発生した。このうち最大規模の地震は9日に発生したM4.2の地震（最大震度2）である。
 - ② 5月29日15時28分58秒に岐阜県飛騨地方でM4.5の地震（最大震度4）が発生した。この地震の約16秒後、ほぼ同じ場所でM4.5の地震が発生した。
- （注）これらの2つの地震は、ほぼ同時刻に、ほぼ同じ場所で発生したため、震度の分離ができていない。

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

「令和6年能登半島地震」の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2025年5月31日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット

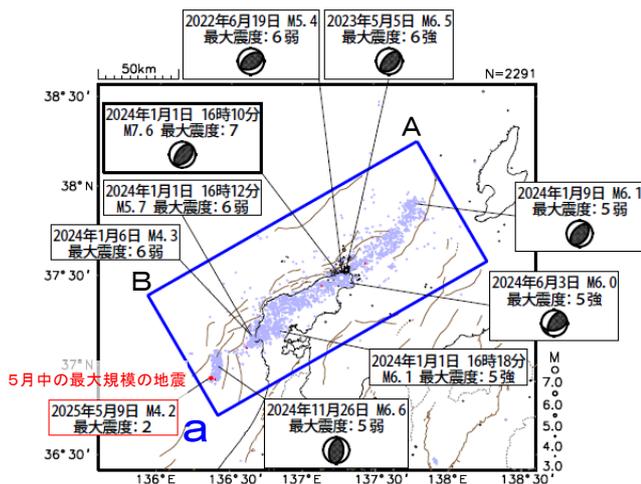
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～2025年4月30日

赤色 2025年5月1日～31日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、 $M6.0$ 以上の地震
及び5月中の最大規模の地震

図中の発震機構はCMT解



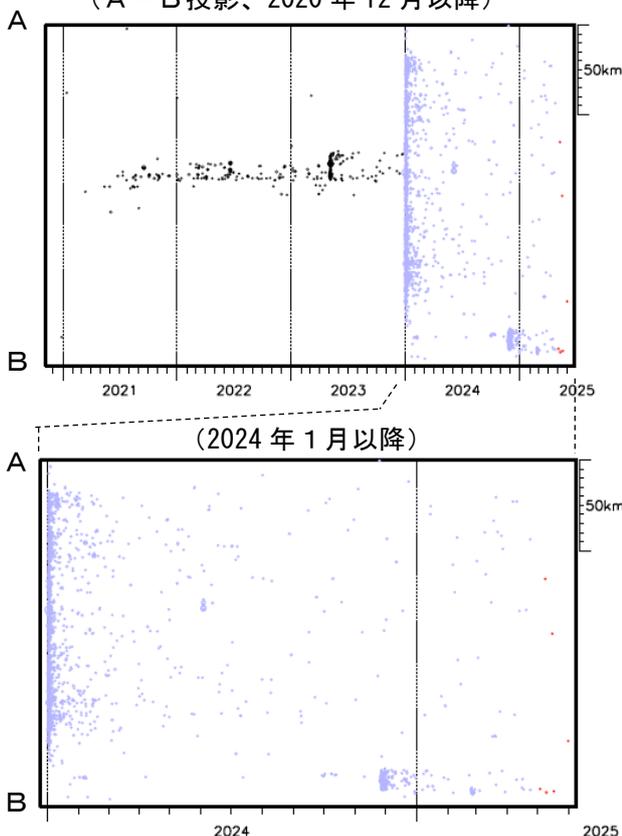
図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

能登半島では2020年12月から地震活動が活発になり、2023年5月5日にはM6.5の地震(最大震度6強)が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

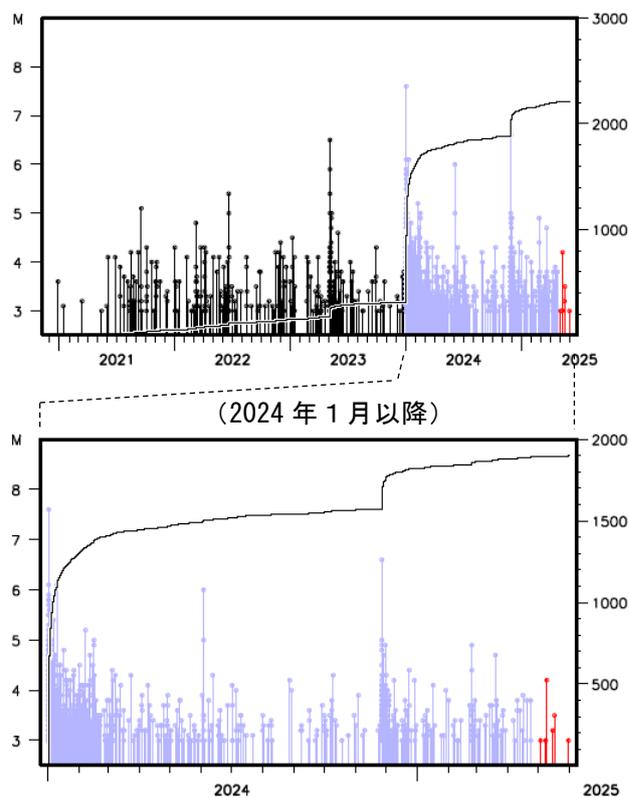
2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmでM7.6の地震(最大震度7)が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。M7.6の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024年11月26日にM6.6の地震(最大震度5弱)が発生した。

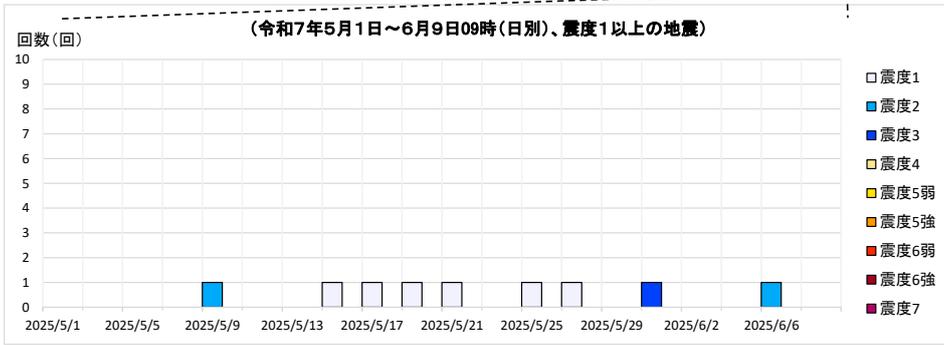
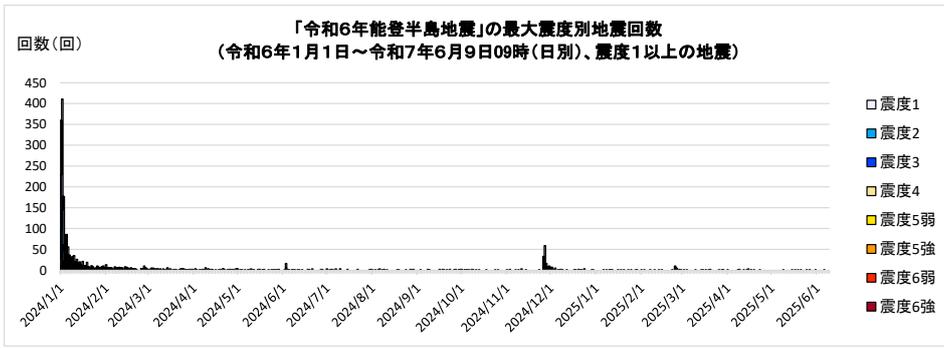
地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、5月中に震度1以上を観測した地震は8回発生するなど、活動は継続している。なお、5月中の最大規模の地震は、9日13時34分に石川県西方沖の深さ13kmで発生したM4.2の地震(最大震度2)である。

領域 a 内の時空間分布図 (A-B投影、2020年12月以降)

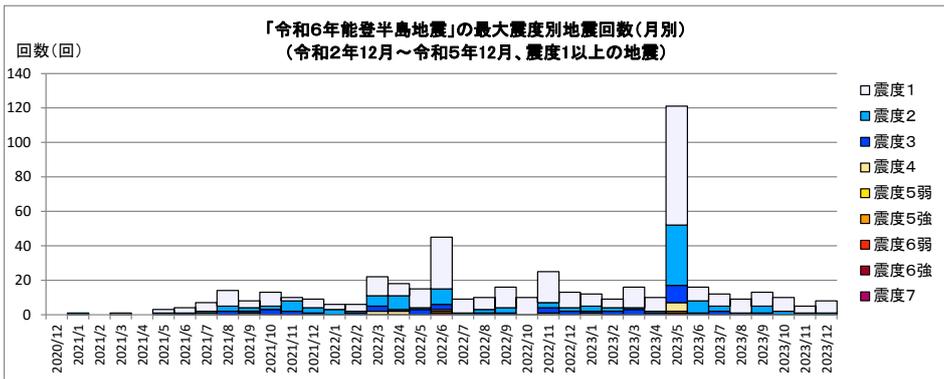


領域 a 内のM-T図及び回数積算図 (2020年12月以降)





【令和2(2020)年12月～令和5(2023)年12月の発生回数(月別)】



【令和2(2020)年12月以降の発生回数(年別)】

年別	最大震度別回数									震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	0	70	70
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	0	195	265
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	0	241	506
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0	0	506	506

2023/6/1～12/31の震度1以上を観測した回数
合計73回
月平均10.4回
月中央値10.0回

2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506
2024/1/1 - 31	941	395	159	45	7	8	2	0	1	1558	2064
2024/2/1 - 29	95	34	12	3	0	0	0	0	0	144	2208
2024/3/1 - 31	49	17	4	0	0	0	0	0	0	70	2278
2024/4/1 - 30	32	9	4	0	0	0	0	0	0	45	2323
2024/5/1 - 31	20	6	2	0	0	0	0	0	0	28	2351
2024/6/1 - 30	27	5	1	1	0	1	0	0	0	35	2386
2024/7/1 - 31	16	3	1	0	0	0	0	0	0	20	2406
2024/8/1 - 31	13	4	1	0	0	0	0	0	0	18	2424
2024/9/1 - 30	14	4	0	0	0	0	0	0	0	18	2442
2024/10/1 - 31	8	6	0	0	0	0	0	0	0	14	2456
2024/11/1 - 30	88	41	5	1	1	0	0	0	0	136	2592
2024/12/1 - 31	24	12	1	0	0	0	0	0	0	37	2629
2025/1/1 - 31	8	2	2	0	0	0	0	0	0	12	2641
2025/2/1 - 28	18	5	2	0	0	0	0	0	0	25	2666
2025/3/1 - 31	7	3	1	1	0	0	0	0	0	12	2678
2025/4/1 - 30	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2690
2025/5/1 - 31	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2698
2025/6/1 - 9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2699
総計(2020/12/1～2025/6/9)	1696	669	245	64	9	11	3	1	1	2699	2699

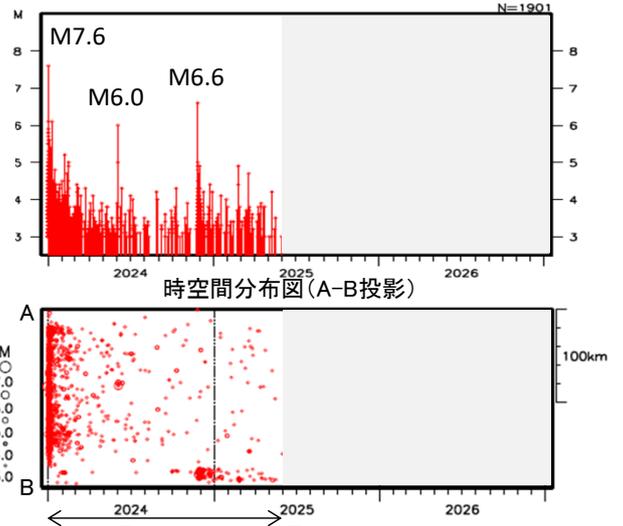
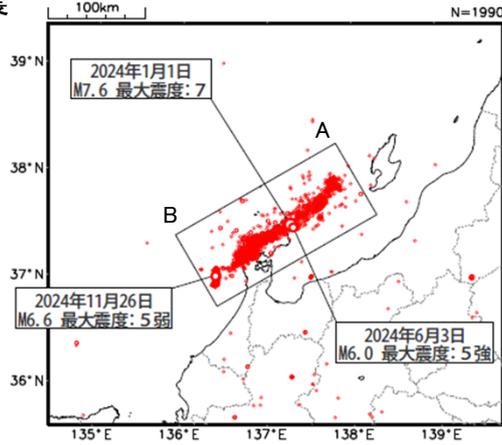
※2024/1/1以降は地震活動の領域が広がったことから、対象領域を拡大して地震回数をカウントしている。

陸のプレート内で発生した過去の大地震との活動比較(36か月間)

M-T図

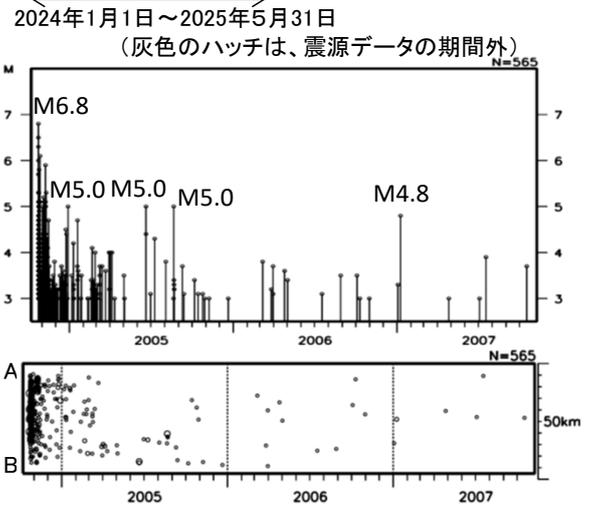
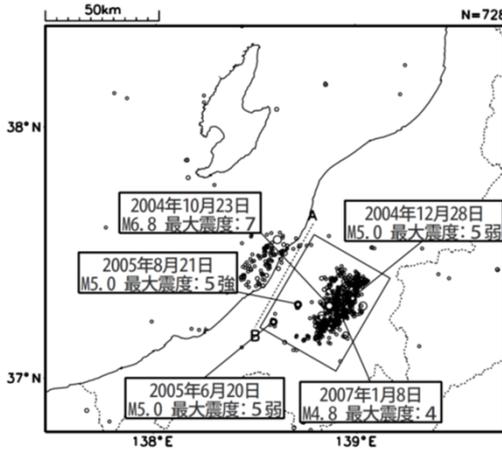
令和6年能登半島地震
(M7.6, 最大震度7)

2024. 1. 1- M \geq 3.0



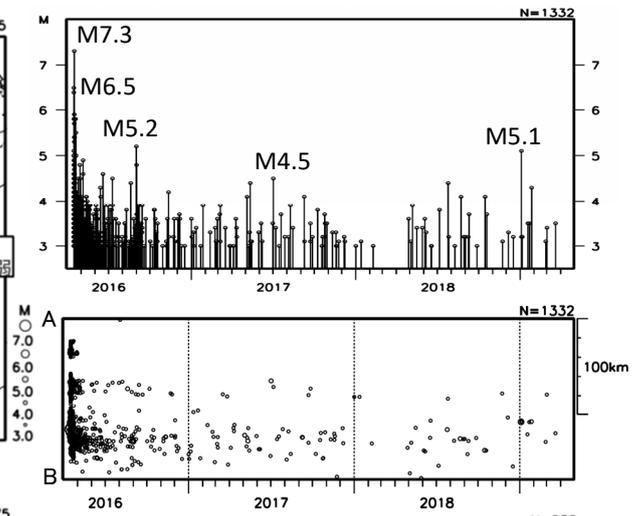
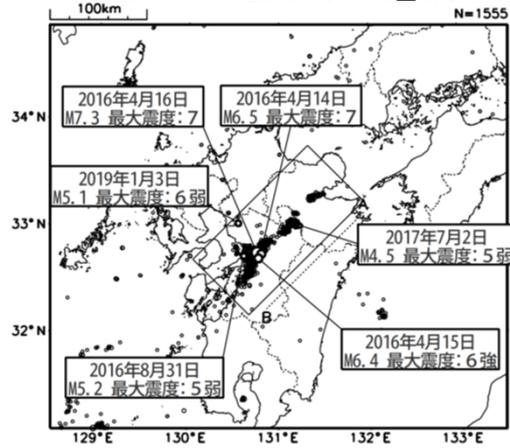
平成16年(2004年)
新潟県中越地震
(M6.8, 最大震度7)

2004. 10. 23-2007. 10. 23 M \geq 3.0



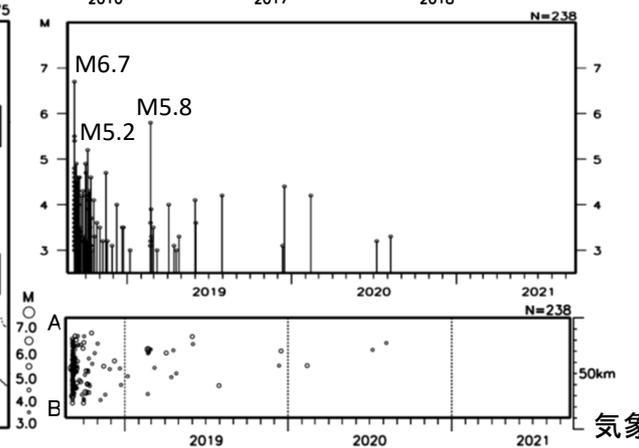
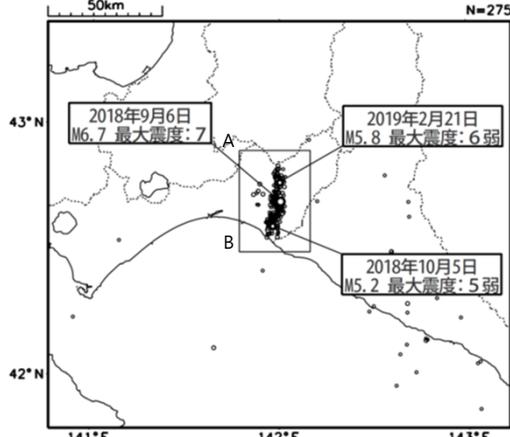
平成28年(2016年)
熊本地震
(M6.5, 最大震度7,
M7.3, 最大震度7)

2016. 4. 14-2019. 4. 14 M \geq 3.0



平成30年
北海道胆振東部地震
(M6.7, 最大震度7)

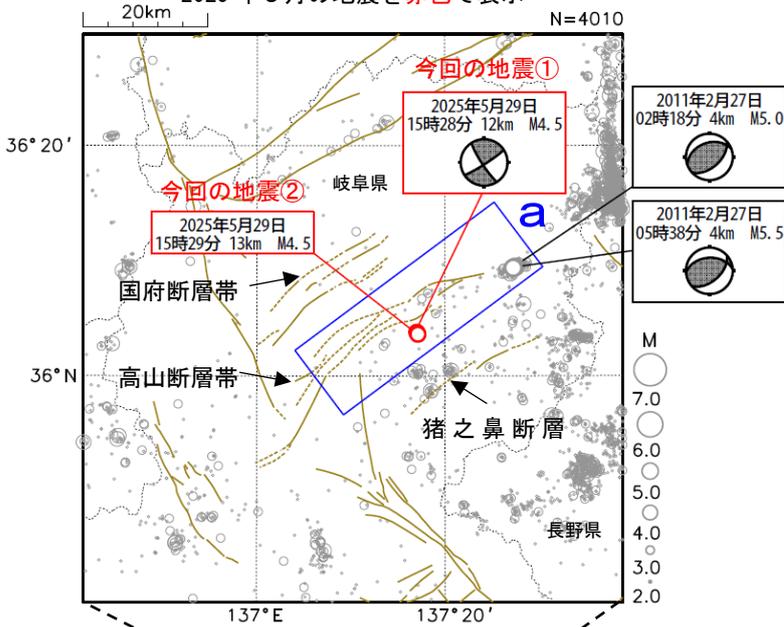
2018. 9. 6-2021. 9. 6 M \geq 3.0



気象庁作成

5月29日 岐阜県飛騨地方の地震

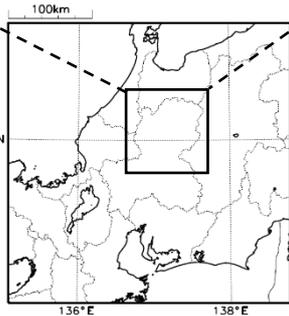
震央分布図
(1997年10月1日～2025年5月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
2025年5月の地震を赤色で表示



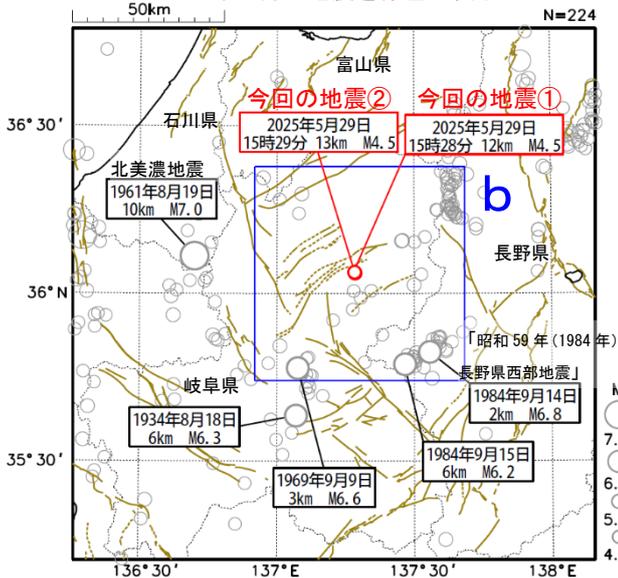
2025年5月29日15時28分に岐阜県飛騨地方の深さ12kmでM4.5の地震(最大震度4、今回の地震①)が発生した。この地震の約16秒後、ほぼ同じ場所でM4.5の地震(今回の地震②)が発生した。これらの地震は、地殻内で発生した。今回の地震①の発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M3.0を超える地震は時々発生しているが、M4.0を超える地震はまれである。2011年2月27日02時18分にM5.0の地震(最大震度4)が、同日05時38分にはM5.5の地震(最大震度4)が発生し、住家一部破損2棟などの被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。

1919年以降の活動を見ると、今回の震央付近(領域b)では、M5.0以上の地震が時々発生している。1984年9月14日にはM6.8の地震(「昭和59年(1984年)長野県西部地震」)が発生し、死者・行方不明者29人などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

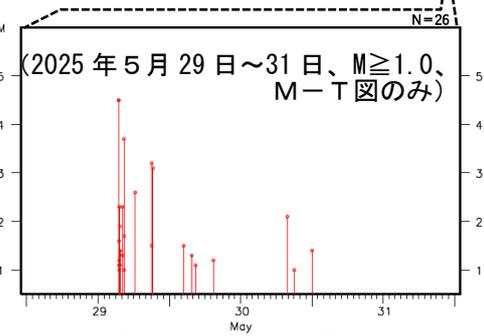
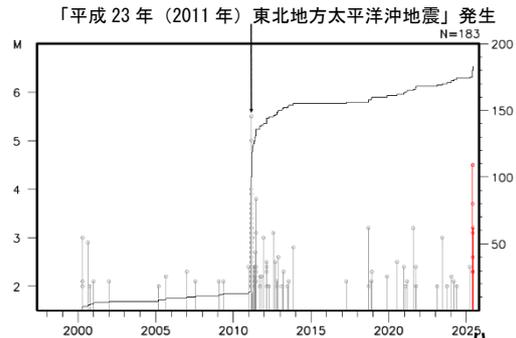


震央分布図
(1919年1月1日～2025年5月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 4.5$)
2025年5月の地震を赤色で表示



図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図

